

Face to Face

TICOは徳島発！保健医療・農村開発などの分野で、アフリカ・アジアで支援活動を行っている国際協力NPO法人です。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々とわかち合い、私たち自身のライフスタイルを振り返るとともに、地域の精神文化の昂揚に寄与することを目的としています。

TICO 季刊ニュースレター

No.47 2017年6月号

ザンビア 母子保健プロジェクト

2017年3月末で終了した、3年間に及ぶプロジェクトについて、最終報告を致します！

☞p.2-3

ザンビア募金 TICO奨学金（学費）支援

皆様からご支援いただいた寄付金事業について、終了の報告を致します。

☞p.4-5

大事なお知らせ

会費の納入時期について、今年度から会費は7月中に納入をお願い致します！経緯をお伝え致します。

☞p.7



▲これまでザンビアの母子保健プロジェクトに関わってきた日本人と事業地の風景

ザンビア／チサンバ郡 総合的な農村母子保健を支える“地域力”強化事業

杉本 尊史（保健医療専門家）

2014年4月から2017年3月までの3年間に渡ったザンビア母子保健事業が終了しました。この紙上においても何度か本事業の紹介をしてきましたが、本号で最後の報告をします。

＊事業の目標

この事業は、TICOが2007年からモンボシ地域で実施してきた保健医療事業の集大成であり、また、それまでモンボシで培った経験を別の地域(ムワブラ)で活かす試みでもありました。

事業の目標は、両地域の住民にきちんとした母子保健サービスが届けられるための基盤を強化し、それが持続的に機能するようにすることです。

＊事業のアプローチ

この事業の一番の特徴は、目標達成のためのアプローチとして「住民保健委員会(NHC)」に着目したことだと言えます。「住民保健委員会」とは、ザンビアで一定の人口ごとに組織されている地域の有志による組織で、医療スタッフと協力して、村の保健に関する活動を行うことになっています。本事業では、地域に既に根付いている「住民保健委員会」に着目して、それがチームとして目的に向かって活動できるようになることを目指しました。

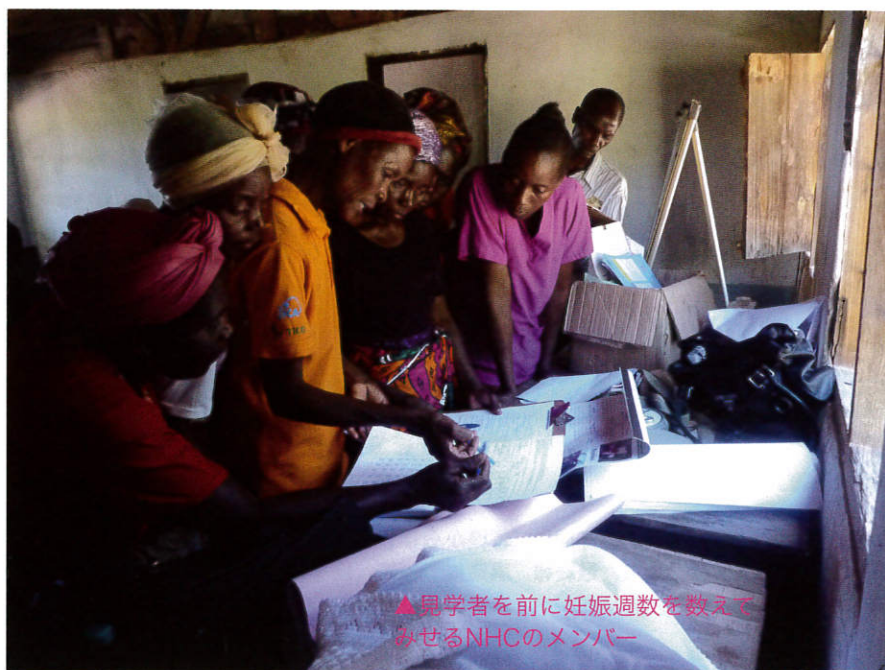
したがって、事業の主たる対象者は、モンボシとムワブラ地域にある全部で16の住民保健委員会、総勢約200人のメンバー(全員が農民)で、両地域にあるヘルスポスト(簡易診療所)の医療スタッフ、彼らを管轄する郡保健局と共に、村の母と子の健康を守るための話し合いと試行錯誤を重ねました。

＊事業の成果

本事業が達成した主な成果は、以下の通りです。

- ・ 住民保健委員会が四半期ごとに独自の活動計画を立て、実施し、評価するようになった。
それまでは絵に描いた餅に過ぎなかった活動計画を、PDCAサイクルを回しながら目標に近づき、かつチームとして成長するための道具として住民保健委員会が活用できるようになりました。

▼活動計画策定ワークショップ



▲男学者を前に妊娠週数を数えてみせるNHCのメンバー

- ・ ムワブラ地域において、(それまで実施されてなかった)母子に対する出張健診が定期的の実施されるようになった。両地域において出張健診の実施内容が改善した。

ヘルスポストスタッフと住民保健委員会が毎月共同で実施する出張健診では、妊婦健診、家族計画、5歳未満児健診が行われ、村の母親と子どもが継続的にサービスを受けられるための重要な機会となっています。ムワブラ地域では、その出張健診が確立されました(モンボシ地域では以前から実施されていました)。また、両地域において、健診の質が改善しました。



▼出張健診に集まった母親に、新生児ケアについて教えるカミネンベNHCのメンバー

- ・ 住民保健委員会の活動をモニタリングするシステムが有効に機能するようになった。
ボランティア組織である住民保健委員会が活動を継続し、さらに改善していくためには、自己学習したり、互いに情報を交換したり、専門職からのフィードバックをもらったりすることが必要です。そのためのシステムを築きました。そして、このことが成果の持続性を保証するものと考えています。

住民保健委員会（NHC）メンバーたちの声

- ・ “チペンビ地区のスタッフが出張健診に来ていた時はただ見ているだけだった。でも今は、私たちがやっている。それが嬉しい。”(ニャンカンガNHC)
- ・ “これまではNHCって何なのかよくわからなかったけど、今は何をやっているか分かるようになった。”(マケニNHC)
- ・ “体重測定などで間違いをしたとき、私たちは互いに教え合う。それが私たちを一つにする。”(ムペレケセNHC)
- ・ “子どもの健診カードに何が書いてあるかなんて知らなかったが、今は全部わかる。栄養カウンセリングとか。だから忙しい。”(ムワブラNHC)
- ・ “以前は出張健診の日をただ待っていただけだったが、今は事前に準備をする。”(ルヤンドNHC)



▶ モンボシでの取り組みを郡全体に発表

◀ 体重測定でひっかかった子どもを選別して個別に対応する、カマクティNHCの栄養カウンセラー

＊最後に

活動計画と出張健診を組織として実施していく経験を積み重ねていくことで、モンボシとムワブラ地域の住民保健委員会は着実に「チーム」として成長し、活動の質も改善してきました。この大きな変化によって、両地域の住民保健委員会とそのシステムは、他地域に対する模範と、チサンバ郡保健局に認識されるようになりました。今後、両地域の住民保健委員会のメンバーたちが、自分たちの村を超えて、また母子保健の枠を超えて、活躍の場を広げてくれることを期待します。

本事業のためにご支援下さった方々に、この場をお借りしてお礼申し上げます。



瀬戸口 千佳（コミュニティ活動専門家/業務調整員）

＊ザンビア国营放送取材

今年2月にザンビア国营放送の取材を受け、45分のドキュメンタリーが作成、放映されました。NHCの貢献、特に出張健診をフォーカスとした番組です。出張健診を受ける母子から、NHCメンバー、ヘルスポストスタッフ、郡保健局スタッフ、保健省のスポークスマンまでの幅広い関係者が取材を受けました。JICAザンビア事務所の担当者の方が仲介役を買って下って実現した企画です。動画は、YouTubeで是非ご視聴ください！

<https://www.youtube.com/watch?v=MQ5kymMUzfk>
(TICOのホームページの下部にもある、3月23日付けフェイスブックの投稿からご覧いただけます)

＊成果共有会

事業終了時に、政府関係者と国内外の援助団体を招待して、首都のルサカで成果を発表しました。片道2時間以上かかるチサンバ郡の農村で、小さなNGOに限られた関係者たちだけで展開してきた事業が、大手機関の関心をどれほど集めるのか、当日まで不安ばかりでした。しかし、ふたを開けてみれば報道関係者も含め予想を上回る約50名の参加をいただき、プレゼン後には活発な質疑応答が行われる盛会となりました！さらに、この会を機に、今後5年間（2017-2021年）のザンビア国家保健戦略文書にベストプラクティスとして本事業が引用されることとなりました！！10年間のモンボシ地域の人たちとの歩みが生み出したもの、それを多くの方に認めていただけたようで、大変励まされるよい節目となりました。



▲ 国营放送の取材を受ける母親と、見守るTICOスタッフ（後方）



▲ 反響を呼んだ、事業の成果共有会

ザンビア募金☆終了報告

瀬戸口 千佳（コミュニティ活動専門家/業務調整員）

「コミュニティの暮らしをよりよいものに！」という地域住民の思いに応えたい、と2013年1月から始めたこのザンビア募金。ザンビア事務所の閉鎖に伴い、この事業も終了することとなりました。

2016年度に新たに支援したのはマケニ小学校の教員住宅建設です。安定した団結力で、しっかり2016年のうちに建設を完了させました。3部屋あるアパートメントとなっており、帰国前に立ち寄った際は、1部屋はすでに埋まっており、もう1部屋も新たに着任した副校長先生が単身赴任で来ており、家族を呼び寄せるための引っ越し準備を整えている状況でした。有資格教員が校長先生1人しかいない状況を改善するための建設事業は確実に成果をもたらしていると安心しました。



▲村の人が焼いたレンガ
(写っている女性は校長先生)



▲基礎工事開始



▲完成！！

続いて紹介するのは、ンジョブ村出張健診小屋建設プロジェクトです。ここは2014年の後半から作業をえっちらおっちら開始しましたが、取りまとめを担当するNHC（※p2参照）が少々頼りなく、幾度もつまずきを繰り返し、村の執行部の協力を要請して、ようやく屋根をあと半分載せるだけ、という段階に到達したのを見届けてまいりました。はやく毎月の青空出張健診が屋内で行われる状況を実現させ、お母さんと子どもにとって快適な健診が提供されるよう祈るばかりです。



▲青空健診



▲手焼きレンガとンジョブNHCのメンバー



▲あとは屋根を半分載せるだけ

最後に学校校舎修繕／教員住宅建設を支援したカムロブエ小学校です。非常にマイペースな先生とPTA役員でしたが、無事、二つとも完了しました。最後の方は現場に行く間隔が数か月空いてしまったのですが、久々に行くとき修繕はすっかり終了して、教員住宅の方は人が住める状況になっていました。「びっくりさせたくて」と校長先生がお茶目に話してくれました。

Before (改装前)



After (改装後)



◀校舎内に光が入るよう、窓にガラスをはり、壁のペンキも塗り直しました。

Before (改装前)



After (改装後)



◀◀床にコンクリートを敷き、机や椅子も新調しました。「勉強に集中しやすい環境になった」と先生も生徒も大喜び。



地域からの声に耳を傾け応えていくことは、草の根で活動しているNGOだからこそできること、と信じて実施してきたザンビア募金は、2013年1月から現在までに計15件の事業を支援することが出来ました。いただいた合計寄付金額は**1,707,531円**に上ります。それぞれの事業で、村人たちが自前で労力を提供したり、カンパを募ったりしておりますので、事業規模自体はもっと膨らみますが、これらのご支援がなければ達成できなかった事業ばかりです。モンボシ地域の住民に代わりまして、心より深謝申し上げます。本当にありがとうございました。

TICO奨学金 (学費) 支援

ザンビア募金と同じく2013年に開始した本事業は、成績上位者で、家庭・経済状況が厳しい学生を**合計115名**支援しました。寄付は総額で**974,748円**を頂戴しました。2013年度は150クワチャ（当時約2,700円）だった年間学費は、2017年度には1350K（約16,000円）と10倍近く値上がりしました。ザンビアの学校は1月始まりのため、年頭に2017年度対象者を学校側担当者と協議・決定し、学費1年分を納めてまいりました。精一杯勉学に励んでくれることと思います。

▶2017年度奨学生（9年生15名）



ザンビア事務所閉鎖のお知らせ

昨年からお知らせしております通り、今年3月末を以てザンビア事務所を撤収しました。理由としては一点目に、2017年3月末にJICA委託事業が終了することに伴い大きな資金源を失うこと、及びその後の長期滞在型委託事業の見込みが無いことにより予算確保が難しいこと。二点目に、活動に一旦区切りをつけて、団体としても今までの活動を振り返り、これからの方向性を再確認する必要がありますと考えたためです。

団体内での協議・次の展開への準備は進んでおりますので、引き続き変わらぬご協力とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

「パリ協定、その革命的な取り決め」

TICO代表 吉田 修

残念ながらパリ協定の内容を知らない人がほとんどである。地球温暖化を最小限に抑える最後のチャンスとしての協定である。世界の平均気温を産業革命前と比べ2℃未満に抑える（できれば1.5℃未満に）。そのために、今世紀後半に温室効果ガスの排出をゼロにする。

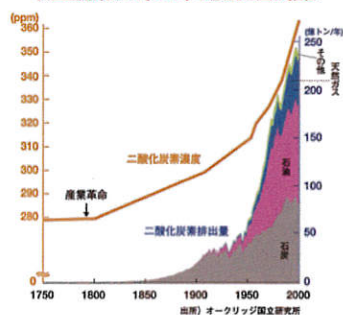
これは、社会の構造を一変させる革命である。今後30年ぐらいの間に、化石燃料（石炭・石油・天然ガス）を使わない暮らし＝再生可能エネルギー（自然エネルギー）のみを使う暮らしを実現するというのだから。下のグラフを見ると、人類が現在いかに石炭・石油・天然ガスに依存しているかが分かる。（原子力については、実はそれほど依存していないし、既に自然エネルギーが凌駕している。使用済み核燃料の処理の目処が立たず、危険性もゼロにできない原子力は速やかに止めるべきである。）

巨大電力会社の独占から地域分散型エネルギー供給への「エネルギーの民主化」であり、新しく大きな産業が生まれることで、地域再生の道にも繋がり得る。利権に絡む人達はこれに抵抗する。トランプ大統領のパリ協定離脱表明もその表れ

であろう。国務長官はエクソンモービル元会長である。また、辞任した復興大臣は東電の8,000株を持っている。日本政府の対応は非常に消極的で、批准が間に合わなかったので次の本会議には出られなかった経緯がある。

日本は、省エネ／再生可能エネルギー／スマートグリッドの分野で世界をリードすべきと考えるが、政治的に大きな遅れを取っているのが現実である。その根底には国民の無関心もないだろうか。「次の世代へ人類が生存できる地球を残す」ための最後のチャンスである。時間はほとんど残されていない。

◆温室効果ガス(CO₂)の濃度と量の推移



よしだ・おさむ：自称兼業農家（外科医）

徳島県出身。アフリカでの国際医療協力活動を経て、現在吉野川市山川のさくら診療所で地域医療を実践しながら、TICOの代表理事を務める。

離任のご挨拶

瀬戸口千佳（ザンビア事務所長）

2009年4月にTICOに勤めだしてはや8年。本当にいろんな経験をさせていただきました。3年弱の徳島での事務局勤務と丸5年以上のザンビア事務所勤務。いずれの土地でも公私ともに、たくさんの人たちに支えられた8年間で、ザンビアも徳島も、私の第2の故郷です。TICOで培った経験と自信を糧に、新たな環境に挑戦したいと決意して、TICOを卒業いたします。これからは一会員として、TICOをサポートしていきますので、どうぞよろしく！



杉本尊史（保健医療専門家）

2014年から3年間、ザンビア母子保健事業の保健医療専門家として活動してまいりました。2-3ヶ月毎に日本とザンビアを行き来する生活はそれだけで十分刺激的で、またそのような立場から、事業やザンビアについてのニュースを日本の皆さんにお届けしなければと思っておりました。今は、事業が無事に終了したのを見届けることができ、一安心しているところです。長年、日本とザンビアの草の根レベルの活動を続けてきたTICOと、それに賛同される皆さんに改めて敬意を表したいと思います。また、私の長期出張に理解を示してくれた家族に、この場を借りて感謝したいと思います。



近森由記子（事務局員）

ここ徳島にしながら、自分にも何かできることがあるんじゃないかと考え、TICOの門をくぐって早4年、事務局職員を退職することとなりました。当初は、国際協力は現地に行き関わらなければ出来ないと思っていましたが、広く深く興味関心を持ち正しい情報を知ろうとすること、自分なりの考えを持つこと、そしてそれに伴う行動を起こすことなど、自分なりの国際協力ができるのではないかと思います。また、NPO法人の運営や人前で話す機会もいただき、多くのことを学ばせていただきました。この場をお借りし、今までお世話になった皆様へ感謝申し上げます。



▲今では懐かしい、ザンビアの主食「シマ」

国金さつき（事務局員）

1年1ヶ月という短期間ではありましたが、事務局にて様々な経験をさせていただきました。皆様には大変お世話になりました。前線で汗を流すTICOのスタッフやザンビアの人たちの、ひたむきな姿勢や目指すものに共感できたからこそ、時に地道な後方支援業務にもやる気が出たように思います。様々な出会いに感謝しつつ、今後もTICOが愛される団体であることを願っております。



▶ザンビアのお母さんとも子と思う気持ちは同じ

大事なお知らせ～年会費の納入時期の統一について～

この度、年会費（年度分4月1日～翌年3月31日）の納入時期を毎年7月に統一とすることになりましたので、ご案内致します。
 これまで年会費の納入は、各会員の皆様が入会した月を基準としておりましたが、「入会した月を忘れてしまった」などの理由により、納入を忘れたり、遅れるなどの問題が生じてきました。その都度、事務局では、会費納入をお願いする文書を発行するなどして対応してまいりましたが、事務の作業量や経費が増加しております。
 そこで、今年5月の第13回定期社員総会において、事務作業の効率化と経費削減のため、会員様ごとにバラバラだった納入時期を毎年7月1日～7月31日までの1カ月間に統一することを提案し、満場一致で了承されました。
 恐れ入りますが、会員の皆様には、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

【納入の例】 ＊クレジットカード継続決済をご利用の方は、お手続き不要です。

- ＊ 2017年3月31日までに納入された方（2016年度分として扱います。）
 ⇒ 2017年7月1日～7月31日の間に納入願います。（次年度以降も毎年7月1日～7月31日の間に納入）
- ＊ 2017年4月1日～6月30日までに納入された方
 ⇒ 2017年度分の年会費は納入済みのため、不要。（次年度以降は毎年7月1日～7月31日の間に納入）
- ＊ 2017年7月1日～2018年3月31日までに納入時期を迎える方
 ⇒ 2017年7月1日～7月31日の間に納入願います。（次年度以降も毎年7月1日～7月31日の間に納入）

♪ご自身の前回会費納入時期については、封筒の宛名部分をご参照下さい♪

【納入の方法】

1. 現金の場合
 ⇒ 直接、事務局へ持参ください。
2. 銀行振込の場合（下記の口座へお振込願います）
 ⇒ 四国銀行山川支店 普通預金0199692 トクヒ）ティコ
 ⇒ ゆうちょ銀行の場合 店名イチロクキュウ店 当座0037649 トクヒ）ティコ
3. 郵便振替の場合
 ⇒ 01640-6-37649 加入者名 TICO
4. クレジットカード（1年のみ）・・・ホームページよりお手続き願います。
上記1～4をご利用の方につきましては、便利なクレジットカード継続決済への変更をお勧めいたします。
5. クレジットカード継続決済の場合
 ⇒ これまで通りとしますので、お手続きは不要です。
6. ゆうちょ銀行自動引き落としサービスをご利用の場合
 ⇒ 今年度すでに振替が完了している方は、来年度より、毎年7月20日に引き落とし
 ⇒ 今年7月から来年3月までに引き落としを申込している方は、今年7月20日引き落とし

【クレジットカード継続決済の申し込み方法】

TICOのホームページ上からお手続きいただけます。①下記のURL (<http://www.tico.or.jp/whatuacan/member/appform/>) のページ下部にある「クレジットカードで会費を支払う」に進み、②「毎年継続引き落とし」の「会員になる」をクリック、③クレジットカード決済の画面に飛ぶので、必要な情報を入力いただければ完了です！

【第13回定期社員総会についての報告】

去る、2017年5月7日（日）午後4時30分から吉野川市山川町のさくら診療所ダイケア室において、第13回定期社員総会が開催されました。主な決議事項を、ご報告いたします。

＊2016年度（平成28年度）の事業報告(案)並びに活動計算書(案)について、審議に諮ったところ、異議なく承認されました。

＊今年度の主な事業計画として、ザンビア並びにカンボジアでの新規プロジェクト案件形成事業が承認されました。

＊役員については、田淵幸一郎理事と萩森健治監事の両名が6月1日をもって任期満了。他の役員については重任となりました。なお、田淵理事の後任は置かず空席のままとし、監事については原田栄枝氏が後任として就任することが了承されました。

＊会員の年会費納入時期について、事務局負担軽減のため、年会費納入時期を毎年7月1日から7月31日の間に統一することとし、会員の皆様に理解と協力を求めていくこととなりました。

詳細は、別紙をご覧ください。

事務局長 福士庸二のつぶやき

バーベキュー (BBQ) の季節です！



先週末、さくらファームのスタッフ男性4人でBBQを楽しみました。農業を営む私たちなので、とれたてのズッキーニ、新じゃが、カラー人参など、新鮮野菜がいっぱいのヘルシーなBBQでした。

その時、盛り上がった話題は「菌」について。



テレビやネットのCMで「除菌」や「殺菌」という言葉を毎日のように耳にしますが、本当に必要なのでしょうか？

私たちは、有機農業に取り組みはじめて「菌」の力を思い知らされている毎日です。土作りは、菌づくりでもあります。

人々は、一般的に農薬散布のことを『消毒』といいます。消毒 (= 除菌、殺菌) したら、有用な菌まで死んでしまうのですが・・・。

おいしい野菜も「菌」のおかげ。

菌が育てたさくらファームの美味しい野菜でBBQはいかがですか？



ご支援ありがとうございました

TICOの国際協力活動は、皆様からの寄付金や会費によって支えられています。温かいご支援をお待ちしております。

寄付をいただいた方(書き損じはがき等含む)

ヒラオカ薬局、峰尾武、白石勝美・久代、日浅芳一、橋本伸子、高松聖ヤコブ教会婦人会、田淵幸一郎・千夏、田淵規子、柳崎義美、滝下智佳、横溝裕子、副島光江、唐住洲子、吉田益子、Plan B、原田恵子、さくら診療所、高島百合、さくらcafe、美郷の湯、津田道子、賀川豊彦記念・鳴門友愛会、森山小学校、南波夏子、新居智次・和世、わらびの会、羽里ヨシミ、徳島文理中学高等学校、篠原弘子、TICOユース、匿名13件

会費を更新された方

峰尾武、大橋瑞紀、凌泰君、山崎恵子、北島コーポレーション、長野修身、中谷加奈子、太陽と緑の会福祉事業団、篠原弘子・幸隆、田村実、田淵幸男・規子、高島百合、福井千陽、近森由記子、工藤瑠沙香、特定非営利活動法人AMDA、富峯康代、柳崎義美、竹下みどり、瀬戸口千佳、津田道子、田淵幸一郎・千夏、今心株式会社、合同会社PlanB、五藤幸根、坂東正章、金納千晴、森山庄八、ヒラオカ薬局、中西敬子、寺口カミコ、加浦由貴、岩田祥三、藤井彩乃、高磯甫隆、竹村俊男、原田恵子、武市

秀男、松田俊太郎、山本秀樹、古川彩香、篠原隆史、萩森健治、田淵元樹、尾崎富美子、田所幸枝、町田美佳、井内一志、須藤榮子、垣原宏治、森本佳奈、和田るり、森本桂子、木下厚子、池田翔子、渡辺大、徳島県協力隊を育てる会会長 井上俊吾、砂田、松島、匿名3件

新たに入会された方

山本和子、匿名1件

●2016年11月1日～2017年5月31日分

●順不同、敬称略

TICOの会員になってください！

会員となって資金面からもTICOの活動をサポートしてくださる方を募集しています。会員の方には、TICOニュースレター“Face to Face”を毎月お送りいたします。

年会費

賛助会員 個人 ￥12,000

学生 ￥6,000

団体 ￥15,000

正会員 ￥12,000

※通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい。

入会ご希望の方は、年会費を郵便振替にてお支払い下さい。郵便局備え付けの振替用紙で、次の口座へお願いいたします。

口座番号 01640-6-37649

加入者名 TICO

ご住所・ご氏名(フリガナ)・お電話番号の他に、Eメールアドレスもお持ちでしたら通信欄にお書き添え下さい。

なお、ゆうちょ銀行自動引き落とし、クレジットカード払いも可能です。

詳しくはホームページをご覧ください。下記までお問い合わせ下さい。

TICOニュースレター Face to Face 第47号

2017年6月発行 発行人：吉田 修

編集：国金 さつき



ご寄付をお待ちしております！

団体としての活動は継続して行なっており、団体に対する寄付については、引き続きご協力をお願い申し上げます。

郵便振替 — 01640-6-37649 (加入者名) TICO

銀行振込 — 四国銀行 山川支店 (店番号344)

普通 0199692

特定非営利活動法人TICO

代表理事 吉田修

カナ入力の場合は、トクヒ) テイコ

クレジットカード — ホームページをご覧ください。

募金箱 — さくら診療所(徳島県吉野川市)に常設しています。

インターネット — TICOウェブサイトのバナー広告をクリックして、そこから買い物していただくと、代金の一部が寄付されます。

書き損じハガキ — 事務局までお送りください。

特定非営利活動法人 TICO 事務局

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4

電話：0883-42-2271 (平日 9:30～18:30)

メール：info@tico.or.jp / ホームページ：www.tico.or.jp

フェイスブック：www.facebook.com/ticohq